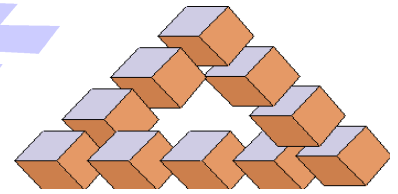


会長の独り言



No. 10 H30.12.5

横浜市小学校算数教育研究会長 小林 広昭

研究主題 「数学的に考える資質・能力を育成する算数科学習」
～数学的な見方・考え方が成長する学び～

学びのある授業研究会に！

今週の月曜日から火曜日にかけて、12本の学習指導案が送られてきました。一つ一つを詳しく見ることはできていませんが、10月の役員会で最初に見た指導案より数段進化したことは、一目でわかります。この二ヶ月あまり、推進チームを中心に、授業者、役員、学年部会長副部会長、場合によっては、区の研究会の方々、会場校の先生方、その他、ゆかりのある先生方のおかげで練り上げられてきました。勤務が終わった夜に何度となく集まって検討したこと、メールで何回もやりとりをして、指導案をつめていったこと、隣のクラスを借りて事前授業したこと、多くの先生方の多くの時間を費やして、今回の授業研が行われること、会長としてこれほどうれしいことはありません。また、かかわってくださった多くの先生方に感謝いたします。今年在全市一斉授業研において、12会場の授業、受け入れ人数は、市算研が最大です。申込者は、全会場で749名になります。この他にも申し込み忘れて会場に来られる方も予想されますので、各小学校、1校につき2名以上が市算研の授業を参観することになります。この授業研究会が、横浜市の算数科授業の改善に大きく貢献することは間違いないと考えます。

ただ、かなり練り上げたものですが、めざす資質・能力を育成する算数科授業が、簡単にできるとは考えていません。うまくいかない方が多いかもしれません。大事なことは、授業改善のためのチャレンジをすることです。チャレンジなくして新しい授業像を創造することはできません。失敗にめげずに挑戦し続けましょう。

参会者のみなさんには、ぜひ次のことをお願いしたいと思います。

- 挑戦の意図、授業者の主張を理解してください。その上で、今回の挑戦の意味を考えてください。さらに、今回の授業のよいところを2つは、見つけてください。そして、授業者に伝えてください。
- 改善点は、具体的に。うまくいかなかったことをあげつらったり一般的な話に終始したりしないように。評論家ではなく実践家としての意見を。
先日も神数連で「必然性のある問題が必要だった。」などと意見を出している指導主事がいましたが、そんなことは誰もが思っていること。ならば、どうしたらよかったのかを具体的に、批判されてもいいくらいの気持ちで出すべきです。
- 子どもの姿、子どもの反応、子どものつぶやきを丁寧に見て、子どもの具体で話をしましょう。
- うまくいかなかったけれど、よかったところ、うまくいったけど、改善した方がよいところを見つけて、言いつ放しでない対話をしてください。授業者が答えてばかりの質問ではなく、協働のある研究会にしてください。

授業者も参観者も共感的な対話をもとに学びのある研究会にしてほしいと願っています。

よろしくお願いいたします。

<この「会長の独り言」は、印刷して配付していただいてもかまいません。>